



**京都府議会海外調査
フィンランド・イギリス調査団
調査概要資料**

**平成29年8月27日（日）～
平成29年9月3日（日）**

フィンランド・イギリス調査団

調査訪問先

①フィンランド共和国/オウル

フィンランド中部に位置する都市。

北ボフヤンマー県(人口約38万人)の県庁所在地であり、人口は約14万人(2011年統計)、国内第6位の規模をもつフィンランド北部における中核都市。

オウル市とその周辺都市とでオウル都市圏を形成しており、都市圏の人口はおよそ23万人。

ハイテク産業が発達していることで知られているが、すぐれた社会福祉サービスと教育システムをもち、戸外活動なども盛ん。

オウル川がボスニア湾に注ぐ辺りに位置している港湾都市でもある。

②フィンランド共和国/ヘルシンキ

フィンランドの首都で同国最大の都市。

人口は616,042人(2013年2月28日現在)、都市的地域の人口は1,176,976人(2012年12月31日現在)、ヘルシンキ都市圏である大ヘルシンキの人口は約140万人でフィンランドではもっとも人口の多い自治体と都市域を形成。

フィンランドの政治や教育、金融、文化、調査センターなど様々な分野の中心都市で、ヨーロッパでも最北の大都市である。

③イギリス/ロンドン

イングランドの首都であり人口は約817万人(2011年3月現在)。

イギリスや欧州連合域内で最大の都市圏を形成。

欧州で最も高等教育機関が集積する都市であり、大学が43校あり。

2012年のロンドンオリンピック開催に伴い、1908年、1948年に次ぐ3度目のオリンピック開催となり、同一都市としては史上最多。

フィンランド・イギリス調査団

調査①

8月28日(月) フィンランド/オウル

「オウル大学」

【テーマ】

福祉サービスと教育システム

オウル大学は、フィンランド国内第二の規模をもつ研究型の総合大学、1959年に創設され、世界最北端に位置する総合大学である。

理学、医学、保健学を備え、教職員は約3000人、学生は約1万7000人が在籍している。

10:00～12:00

・レクチャー

保育・介護共通資格制度(ラヒホイタヤ)、プログラミング教育、主権者教育



フィンランド・イギリス調査団

調査②

8月28日(火) フィンランド/オウル

「カリタス」

【テーマ】

障害者・高齢者福祉サービス

カリタスは、2014年にオープンした障害者・高齢者対象の民間福祉施設である。

入居者のニーズに合わせた高品質なサービスを提供、入居者は24時間体制でスタッフサービスを受けることが可能となっている。

- 13:30～ 軽食
- 13:45～ レクチャー
・施設サービスについて
- 14:10～ 施設視察
- 15:00～ 質疑応答



フィンランド・イギリス調査団

調査③

8月29日(火) フィンランド/ヘルシンキ

職業教育学校「オムニア」

【テーマ】

保育・介護共通資格制度(ラヒホイタヤ)

ラヒホイタヤとは、保育や介護など保健医療分野にまたがるフィンランド独自の共通資格制度である。フィンランド語で「そばでケアする人」の意味。

1992年から始まり、これまでの資格取得者は約16万人。有資格者は保育士や介護士など10職種から選んで就職し、異なる職種への転職もしやすい。

同校では一般的に2年で基礎コースを終え、1年で保育、高齢者介護、障害者ケア、メンタルケアなど分野ごとの専門科目を学んでいる。

基礎コースには、数週間の実習が何度もあり、介護や保育の施設にまんべんなく派遣されるため、保健医療の基礎知識が身につくことが特長である。

保育から介護へ、制度は人材流動化にも役立っている。

9:00～ レクチャー

- ・フィンランドにおける職業教育
- ・オムニアでの実践的な看護教育と訓練

10:00～ クラスの訪問

- ・先生や生徒との懇談
- ・教育環境の視察

11:00～ レクチャー

- ・国のガイドラインからオムニアでの継続的な訓練(OJLの観点から)

OJL(On the Job Learning): 実際の仕事を通して経験し、経験を振り返り、新しい手段や対応を考え、試行して行きながら仕事の成果と能力の向上を目指す、自主的な学びの場

フィンランド・イギリス調査団

調査④

8月29日(火) フィンランド/ヘルシンキ

「ネウボラ/ピックプリンシ幼稚園」

【テーマ】

子育て支援施策(ネウボラ)

■ネウボラ 調査先、調査日時などの詳細について調整中

ネウボラとは、フィンランドの自治体が提供している子育て支援施設とそのサービスを指す。

ネウボラには、特別な教育を受けた保健師、助産師が在籍し、親の妊娠から子どもが6歳になるまでの間、幅広い育児支援サービスを提供している。

【特長】

○所得の制限はなく、サービスは、無料

1920年代、新生児の死亡率が高かったころ、母子の命の安全確保、乳幼児の健康を守るために、小児科医、看護師、助産師らの有志によって無料で始められた。1944年に国によって制度化され、全国で800箇所を超える。

○きめ細かなサービス

ネウボラで受診した親に対し、原則一人のネウボラ保健師が担当。親への支援を同じ施設の担当者が担うことによって、利用者はたらい回しされることはなくなる。プライバシーへの配慮から面談は個室で実施している。

ネウボラ(neuvola): アドバイス(neuvo)する場(la)という意味。全ての地方自治体にある。

■ピックプリンシ幼稚園

14:00~15:00

レクチャー(子育て支援策)の後、ピックプリンシ幼稚園見学

フィンランド・イギリス調査団

調査⑤

8月31日(水) イギリス/ロンドン

「元カルチュラルオリンピックアード・クリエイティブプログラマー／ニューハム区役所」

【テーマ】 オリンピックにおける文化レガシー

■元カルチュラルオリンピックアード・クリエイティブプログラマー 調査日時、調査場所など詳細は調整中

2012年ロンドンオリンピックの文化プログラム

北京オリンピックが終わった2008年の9月から4年間のカルチュラル・オリンピックアードがスタート。12年のオリンピック本番ではロンドン2012フェスティバルという12週間の大規模な国際芸術祭を開催した。

演劇や音楽、ダンス、美術、文学、映画、ファッションなどあらゆる分野にわたる文化イベント総数は約18万件、参加者数は4,340万人、総事業費は220億円。

ロンドンだけではなくイギリス全土1,000箇所以上実施され、アスリートと同じ204の国と地域から4万人以上のアーティストが参加し、5,000以上の新しい作品が生まれた。

テーマ「英国の誰もがロンドン五輪に参加するチャンスを提供し、創造性を喚起させること。」ビジョン「一生に一度きり」が掲げられ、アーティストたちの斬新なアイデアが数多く実現した。

■ニューハム区役所

8:55～ レクチャー
・文化レガシー

10:30～ オリンピックパーク見学



フィンランド・イギリス調査団

調査⑥ 8月31日(木) イギリス/ロンドン

「オリンピックパークエネルギーセンター」

【テーマ】再生可能エネルギー施策

世界でもっともグリーンなオリンピックを目指して、2012年ロンドンオリンピックのためにレガシー構想の一環としてクイーン・エリザベス・オリンピック・パーク内に建設された。

コージェネレーションシステムの導入で、独立してパークにエネルギー供給している。低炭素排出のサステナブルエネルギーを目指し地域エネルギー供給でイギリス最大規模を誇るプラントである。

11:15~12:15 センター視察



フィンランド・イギリス調査団

調査⑦

8月31日(木) イギリス/ロンドン

「ザ・クリスタル」

【テーマ】再生可能エネルギー施策

ドイツの大手電機メーカー、シーメンス(Siemens)社による、「持続可能な世界」を実現するためのどのような取り組みをしていけば良いのかを簡潔に説明した展示館である。

一般の人々向けに、地球温暖化問題に対する理解度や意識を向上させることを目的に作られた。地球温暖化の進行を可視化し、環境問題を説明している。

雨水や太陽光を最大限に利用し、日照時間や角度なども計算されて設計された建物となっている。

BREEAM及びLEED※による建築物のエネルギー効率性の国際評価で、同館はそれぞれ「非常に優れている」「プラチナ」の最高ランクを与えられ、世界で最もグリーンな施設のひとつとして評価された。

※環境に配慮し、持続可能な建築物について評価・認証するシステム

BREEAM: 英国建築研究財団が策定し運用

LEED: 米国グリーンビルディング協会が開発・運用

14:00～15:00 ザ・クリスタル視察



フィンランド・イギリス調査団

調査⑧

9月1日(金) イギリス/ロンドン

「ストーク・マンデビル・スタジアム」

【テーマ】 障害者スポーツ施策

ロンドンから電車で一時間ぐらいほどの小さな町、バッキンガムシャー・エイルズベリーには、パラリンピック発祥の地とされるストーク・マンデビルという村に、第2次大戦で脊髄を負傷した兵士たちのために作られたストーク・マンデビル病院があり、兵士の治療と社会復帰を目的に、1944年、脊髄損傷科を開設された。1953年には国立脊髄損傷センターと改名し、リハビリ施設が作られた。

医師のルードヴィヒ・グットマン(Ludwig Guttman)による提唱で、1948年に「マンデビル競技大会(障がい者によるの最初の国際的な競技会)」がストーク・マンデビル・スタジアムにて開催された。この大会が、現在のパラリンピックのルーツといわれている。

2012年に開催されたロンドン・パラリンピック大会の公式マスコット「マンデビル」は、このマンデビルスタジアムが名前の由来となっている。

障害者スポーツ選手のトレーニング拠点となっており、ロンドンパラリンピックに臨む選手の多くが、この施設で最終調整を実施した。スタジアム内施設は障がいを持つ方だけでなく地元全ての人々に開放され、周辺に住む全ての人々にスポーツを楽しむ機会を提供している。

10:00~11:15 レクチャー※当日の状況により、利用者との交流の予定



フィンランド・イギリス調査団

調査⑨ 9月1日(金) イギリス/ロンドン

「キューガーデンキューパゴダ」

【テーマ】文化財保全・修復

歴史的建造物、保存・修復の権威、Dr Lee Proser 教授から履修工事を行っているKew GardensのKew Pagoda(オリジナルは1762年建設、)の文化財保全・修復について調査を行う。

実際に修復現場の足場に上り、保全・修復の状況を視察する。

【キューパゴダ】

中国のパゴダ(仏塔)を模して、William Chambers 卿によってデザインされ、Princess Augustaへ献上されたというもので 和との融合となるデザイン

午後:時間調整中



《Dr Lee Proser 教授》

1988年にウェールズ大学を卒業したプロッサー教授は、ブリストルで博士研究を続ける前に、考古学とビクトリア朝の学問を学ぶ。大学を卒業後、英国東部の歴史的建造物を記録したチームを率いて、2003年に歴史王立宮殿で歴史的建造物のキュレーターとしての役割を果たす。プロッサー教授は歴史的な宮殿のいくつかの主要プロジェクトを再演/Kew Palace、Kensington Palace、Great Pagoda(Kew Palace近郊)の修復を行った